

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）  
分担研究報告書

分担課題：不育症女性に対する精神的支援に関する研究  
～不育症女性の顕在性不安～

研究分担者 中塚幹也 岡山大学大学院保健学研究科 教授  
岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」責任者

研究要旨

不育症の女性では、繰り返される流死産経験が精神的状態に影響する可能性がある。このため、岡山大学病院不育症外来を受診し同意の得られた不育症女性 75 名に対して、MAS:Manifest Anxiety Scale を用いて、顕在性不安を評価した。

MAS 得点から、不安障害領域に属する女性は 6 名 (8.0%)、うつ病領域に属する女性は 3 名 (6.2%) 存在していた。流死産回数と生児の有無との関連をみたところ、流死産 4 回以上の中で、生児あり群は生児なし群に比較して有意に高得点であり、不安障害、うつ病の合併を念頭に支援することが必要であると考えられた。

A. 研究目的

不育症の女性では、繰り返される流死産経験が精神的状態に影響する可能性がある。また、その後も次回の妊娠に対して不安を抱えている場合が多いことも予測される。本研究では、不育症外来受診者の抑うつ傾向と顕在性不安を評価し、その支援に関して検討した。

B. 研究方法

2008 年 5 月～2009 年 6 月に岡山大学病院産科婦人科不育症外来を受診し、同意の得られた不育症女性 75 名を対象とし、自己記入式質問紙調査を施行した。顕在性不安の評価には、J. Taylor の顕在性不安尺度 (MAS:Manifest Anxiety Scale) の日本語版を用いた。

尚、研究への参加、中止は自由意思であり、不参加や中止により、いかなる不利益も受けないことを説明し、同意のもと行った。回収したデータは本研究にのみ使用した。

C. 研究結果

対象の年齢は、 $33.1 \pm 4.1$  (mean  $\pm$  S. D.) [21～41] 歳、既往流死産回数は  $2.9 \pm 1.5$  [1～7] 回、うち、生児を獲得していた女性は 16 名 (21.3%) であった。

MAS 得点は、 $15.8 \pm 6.1$  [2～35] であり、不安障害領域になる 22 点以上の者が 6 名 (8.0%)、うつ病領域になる 27 点以上の者が

3 名 (6.2%) 存在した。

MAS 得点と年齢については、弱い相関が認められ ( $r=0.2$ ,  $p<0.05$ )、年代別に MAS 得点を比較すると、20 代 ( $n=12$ ) は  $19.7 \pm 6.5$ 、30 代 ( $n=59$ ) は  $15.1 \pm 5.8$ 、40 代 ( $n=4$ ) は  $13.3 \pm 6.6$  であり、20 代は 30 代に比較して、有意に高かった ( $p<0.05$ )。また、対象を高年齢妊娠・出産の区切りとなる 35 歳で 2 群に分けて MAS 得点を比較すると、34 歳以下の群 ( $n=48$ ) は  $15.9 \pm 6.0$ 、35 歳以上の群 ( $n=27$ ) は  $15.5 \pm 6.5$  であり、両群間に差は認められなかった。

MAS 得点と流死産回数については、弱い相関が認められ ( $r=0.2$ ,  $p<0.04$ )、習慣性流産とされる流死産回数 3 回で対象を 2 群に分けて MAS 得点を比較すると、流死産回数 3 回以下の群 ( $n=57$ ) は  $15.2 \pm 5.1$ 、4 回以上の群 ( $n=18$ ) は  $17.6 \pm 8.6$  であり、両群間に差は認められなかった。

生児の有無について対象の 2 群に分けて MAS 得点を比較すると、生児なし群 ( $n=59$ ) は  $14.9 \pm 5.8$ 、あり群は  $18.8 \pm 6.5$  であり、両群間に有意差は認められなかった。

これをふまえて、流死産回数と生児の有無で計 4 群に分けて MAS 得点を比較すると、流死産 3 回以下かつ生児なし群 ( $n=45$ ) は  $14.8 \pm 5.2$ 、流死産 3 回以下かつ生児あり群 ( $n=12$ ) は  $16.7 \pm 4.6$ 、流死産 4 回以上かつ生児なし群 ( $n=14$ ) は  $15.4 \pm 7.7$ 、流死産 4 回以上かつ生

児あり群 (n=4) は  $25.3 \pm 7.9$  であり, 流死産 4 回以上の中で, 生児あり群は生児なし群に比較して有意に高かった ( $p < 0.02$ ) .

#### D. 考察

不育症外来を受診している女性の中には, 不安障害領域やうつ病領域に入る者がおり, 流死産後, 数ヶ月の間に紹介され当院を受診している今回の対象は, うつ病発症のリスクが高いと考えられる.

また, MAS 得点は, 流死産回数 4 回以上の対象において, 生児あり群は生児なし群に比較して有意に高かったが, 流死産 4 回以上かつ生児ありの女性は, 全員が生児獲得後に流死産を経験していた. このことから, 必ずしも子どもがいることで精神的な問題が緩和されているとは限らず, また, 問題なく出産した後に流死産を繰り返したことで, 自分の身体の変化を感じ, 不安が増強されている可能性が考えられた.

#### E. 結論

本研究より, 不育症外来の受診者に対して, MAS は性格的な不安傾向を把握する上では, 有効であると考えられた. また, この不安傾向には, 年齢や妊娠歴が影響する可能性が示唆された.

現在, これらの顕在性不安も含め, 精神的ストレスと各種の内分泌学的検査データ, 免疫学的検査データとの関連を検討するため, 潜在性高プロラクチン血症, NK 活性, Th1/Th2 比などとの関連を検討中である.

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 菊池由加子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也. 不育症症例における初診時の顕在性不安の検討. 岡山県母性衛生 26 (印刷中) .

##### 2. 学会発表

- 1) 菊池由加子, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也

. 不育症における先天性子宮形態異常と妊娠予後. 第 45 回日本周産期・新生児医学会 2009 年 7 月 12~14 日.

- 2) 中野裕子, 菊池由加子, 佐々木愛子, 松田美和, 小谷早葉子, 清水恵子, 鎌田泰彦, 中塚幹也, 平松祐司. 抗凝固療法が奏功せず治療に苦慮した不育症の 1 例. 第 62 回日本産科婦人科学会中国四国合同地方部会 2009 年 9 月 26~27 日.
- 3) 江見弥生, 佐々木愛子, 松田美和, 秦久美子, 大谷友夏, 中塚幹也. 不育症当事者の思い—ピアサポートグループへの入会時アンケートより—. 第 50 回母性衛生学会 2009 年 9 月 27~28 日.
- 4) 難波沙由里, 矢富茜, 久下さくら, 三谷久美子, 奥村永里子, 江見弥生, 中塚幹也. 不育症のへパリン治療: 医療スタッフによる注射と自己注射との負担の比較. 第 50 回母性衛生学会 2009 年 9 月 27~28 日.
- 5) 矢富茜, 久下さくら, 三谷久美子, 奥村永里子, 難波沙由里, 米藤由貴, 江見弥生, 中塚幹也. 流死産時の環境, 医療スタッフの対応とその後の不育症女性の心理. 第 50 回母性衛生学会 2009 年 9 月 27~28 日.
- 6) 後藤由佳, 奥田博之, 中塚幹也. 女性の心拍変動と神経症との関連. 第 62 回日本自律神経学会 2009 年 11 月 5~6 日.
- 7) 江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 菊池由加子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也. 不育症症例における初診時の顕在性不安の検討. 第 26 回岡山県母性衛生学会 2009 年 11 月 7 日.
- 8) 江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 菊池由加子, 小谷早葉子, 清水恵子, 佐々木愛子, 鎌田泰彦, 中塚幹也. 不育症女性の抑うつ傾向と顕在性不安の評価. 第 54 回日本生殖医学会 2009 年 11 月 21~23 日.
- 9) 田淵和宏, 中塚幹也, 清水恵子, 莎如拉, 松田美和, 菊池由加子, 小谷早葉子, Chebib Chekir, 佐々木愛子, 鎌田泰彦, 平松祐司. 不育症症例における潜在性高プロラクチン血症の検討. 第 54 回日本生殖医学会 2009 年 11 月 21~23 日.
- 10) 岡崎倫子, 中塚幹也, 菊池由加子, 田淵和宏, 莎如拉, 松田美和, 小谷早葉子, 清水恵子, Chebib Chekir, 佐々木愛子, 鎌田

泰彦, 平松祐司. 不育症症例におけるアッ  
シヤーマン症候群の検討. 第 54 回日本生  
殖医学会 2009 年 11 月 21~23 日.

- 11) 田淵和宏, 菊池由加子, 江見弥生, シェキ  
ル・シェビブ, サルラ, 小谷早葉子, 清水  
恵子, 松田美和, 佐々木愛子, 鎌田泰彦,  
平松祐司, 中塚幹也. 不育症女性における  
免疫学的検査異常と気分プロフィール. 第  
24 回日本生殖免疫学会 2009 年 11 月 27~  
28 日.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む.)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

流産、死産を繰り返す「不育症」の女性の約4割が、病院の対応に不満を持っているという調査結果を、岡山大大学院の中塚幹也教授(看護学分野)らが28日までにまとめた。医療スタッフの配慮に欠けた言動が、流産、死産で傷ついた女性の精神状態をさらに悪化させている実態が浮かび上がったといえ、中塚教授は「次の妊娠に向けた意欲をそぐ一因」と指摘している。(民直弘) = 22面に関連記事



発行所  
山陽新聞社  
岡山市北区柳町2-1-1  
新聞製作センター  
岡山市北区新屋敷1-1-18

1面

## 流産、死産繰り返す 「不育症」の女性

調査は厚生労働省の科学研究の一環。中塚教授と岡山大を今春卒業した助産師の矢富茜さんが、同大病院不育症専門外来を2008年7、10月に受診した109人を対象に

不育症は、血液が固まりやすくなる凝固異常のため胎盤の血管が詰まることで起きたり、子宮の形態異常や染色体異常が原因。患者数など詳しい実態は分かっていない。

# 病院対応に4割不満

### 岡山大大学院教授ら調査

アンケートを行った。結果は、病院の環境について回答した78人のうち、「良は我慢しないで」と声をなかつた」としたのが32人(41%)。多かった理由(複数回答)は「大声で泣ける部屋を使えなかつた」(60人)、死産を心理的に受け入れられ「よくあること」と言われた時期に「(別の人の)元気が、泣くのをやめるよう注意な」赤ちゃんの泣き声が聞こえてきた」(19人)などだ。中塚教授は「不育症女性の85%は適切な検査と治療で立

## 配慮欠くスタッフも

さらに妊娠に関する心理状態を点数化(最高100点)して調査したところ、初めて妊娠したうれしきは平均80点だが、流産、死産を1回経験した後の妊娠は63点、2回経験後は53点と低下した。矢富さんは「再び子どもをしくす不安から、本来なら喜びたい気持ちを必死に抑え込んでいる」と分析している。死産は全国で年間約3万件(厚生省調べ)を数え、妊娠経験のある女性の約4割が生産に流産を経験するというデータもある。

「不育症」女性

# 心の傷抱え退院

## 余裕ない現場 ケア広がらず

流産や死産で悲しみに暮れ、ケアを受けることなく、心に深い傷を抱えたまま退院。不育症に関する岡山大の調査で、病院に不満を感じる女性の実態が28日までに明らかになった。わが子の死に直面した母親の立ち直りを支えるグリーフ(悲嘆)ケアに取り組む医療機関は、全国でも数少ないとみられている。(1面関連)

流産や死産で悲しみに暮れ、ケアを受けることなく、心に深い傷を抱えたまま退院。不育症に関する岡山大の調査で、病院に不満を感じる女性の実態が28日までに明らかになった。わが子の死に直面した母親の立ち直りを支えるグリーフ(悲嘆)ケアに取り組む医療機関は、全国でも数少ないとみられている。(1面関連)

流産や死産で悲しみに暮れ、ケアを受けることなく、心に深い傷を抱えたまま退院。不育症に関する岡山大の調査で、病院に不満を感じる女性の実態が28日までに明らかになった。わが子の死に直面した母親の立ち直りを支えるグリーフ(悲嘆)ケアに取り組む医療機関は、全国でも数少ないとみられている。(1面関連)

流産や死産で悲しみに暮れ、ケアを受けることなく、心に深い傷を抱えたまま退院。不育症に関する岡山大の調査で、病院に不満を感じる女性の実態が28日までに明らかになった。わが子の死に直面した母親の立ち直りを支えるグリーフ(悲嘆)ケアに取り組む医療機関は、全国でも数少ないとみられている。(1面関連)

と過ごすことができず。ケアを受けた女性からは「悲しいけれど、別れを受け入れることができた気がする」(医療スタッフが)一緒に泣いてくれて、慰められた」などの声が出ることが再起への第一歩とされる。岡山大病院は2006年からグリーフケアに取り組んでいる。流産、死産の場合、家族だけで過ごせる部屋を可能な限り用意。母親は息絶えた赤ちゃんを入浴させたり、手作りで着せたり、服を着せたり…。望むだけ子ども

と過ごすことができず。ケアを受けた女性からは「悲しいけれど、別れを受け入れることができた気がする」(医療スタッフが)一緒に泣いてくれて、慰められた」などの声が出ることが再起への第一歩とされる。岡山大病院は2006年からグリーフケアに取り組んでいる。流産、死産の場合、家族だけで過ごせる部屋を可能な限り用意。母親は息絶えた赤ちゃんを入浴させたり、手作りで着せたり、服を着せたり…。望むだけ子ども

と過ごすことができず。ケアを受けた女性からは「悲しいけれど、別れを受け入れることができた気がする」(医療スタッフが)一緒に泣いてくれて、慰められた」などの声が出ることが再起への第一歩とされる。岡山大病院は2006年からグリーフケアに取り組んでいる。流産、死産の場合、家族だけで過ごせる部屋を可能な限り用意。母親は息絶えた赤ちゃんを入浴させたり、手作りで着せたり、服を着せたり…。望むだけ子ども

と過ごすことができず。ケアを受けた女性からは「悲しいけれど、別れを受け入れることができた気がする」(医療スタッフが)一緒に泣いてくれて、慰められた」などの声が出ることが再起への第一歩とされる。岡山大病院は2006年からグリーフケアに取り組んでいる。流産、死産の場合、家族だけで過ごせる部屋を可能な限り用意。母親は息絶えた赤ちゃんを入浴させたり、手作りで着せたり、服を着せたり…。望むだけ子ども

と過ごすことができず。ケアを受けた女性からは「悲しいけれど、別れを受け入れることができた気がする」(医療スタッフが)一緒に泣いてくれて、慰められた」などの声が出ることが再起への第一歩とされる。岡山大病院は2006年からグリーフケアに取り組んでいる。流産、死産の場合、家族だけで過ごせる部屋を可能な限り用意。母親は息絶えた赤ちゃんを入浴させたり、手作りで着せたり、服を着せたり…。望むだけ子ども

と過ごすことができず。ケアを受けた女性からは「悲しいけれど、別れを受け入れることができた気がする」(医療スタッフが)一緒に泣いてくれて、慰められた」などの声が出ることが再起への第一歩とされる。岡山大病院は2006年からグリーフケアに取り組んでいる。流産、死産の場合、家族だけで過ごせる部屋を可能な限り用意。母親は息絶えた赤ちゃんを入浴させたり、手作りで着せたり、服を着せたり…。望むだけ子ども

と過ごすことができず。ケアを受けた女性からは「悲しいけれど、別れを受け入れることができた気がする」(医療スタッフが)一緒に泣いてくれて、慰められた」などの声が出ることが再起への第一歩とされる。岡山大病院は2006年からグリーフケアに取り組んでいる。流産、死産の場合、家族だけで過ごせる部屋を可能な限り用意。母親は息絶えた赤ちゃんを入浴させたり、手作りで着せたり、服を着せたり…。望むだけ子ども

不育症調査に当たった岡山大学院の中塚幹也教授は「医療スタッフは流産、死産した女性に対し、腫れ物に触るような態度を取る傾向があるが、逆に孤独感を深めてしまう。女性の気持ちに寄り添い、悲しみを受け止める姿勢が求められる」と訴えている。(民直弘)

2009年(平成21年)8月3日 月曜日

### 最新の治療法紹介

#### 岡山大で不育症講演会

不妊症や、流産・死産を繰り返す「不育症」などをテーマとした講演会が2日、岡山市北区鹿田町の岡山大鹿田キャンパスであり、約80人が最新の治療法について学んだ。

医療スタッフでつくる「生殖医療サポートの会OKAYAMA」のメンバーが、科学的根拠に基づいたバランスの良い食事の摂

取が、不妊防止の一つとして大切と強調。県不妊専門相談センターの担当者が、公的機関や病院に設けられた相談窓口の積極的な活用を訴えた。

岡山大学院の中塚幹也教授は、血液の流れが悪くなることで流産を繰り返す患者に対する不妊症や不育症などをテーマとした講演会



し、アスピリンなどの投与によって血が固まるのを防ぐ治療法を紹介し、「不育症の女性が子どもを持つまでに幾つものハードルがあるが、適切な医療を受けられるかどうか重要」と指摘した。

講演会は、岡山大病院内に開設されている県不妊専門相談センターなどが主催し、今年が5回目。  
(河内慎太郎)

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
中塚幹也	卵巣凍結保存の境界線	篠原駿一郎, 石橋孝明 編	よく生き、よく死ぬ、ための生命倫理学	ナカニシヤ出版	京都	2009	68-90
中塚幹也	多様な性をめぐって：性別はどうやって決まるのでしょうか？	岡山県教育庁人権・同和教育課	人権教育指導資料VI	岡山県教育庁人権・同和教育課	岡山	2009	106
中塚幹也	妊産褥婦の診察と検査／妊娠の診断と妊婦管理	石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫	講義録 産科婦人科学	メジカルビュー社	東京	2010	
中塚幹也	ジェンダーとセクシュアリティ	石原理, 柴原浩章, 三上幹男, 板倉敦夫	講義録 産科婦人科学	メジカルビュー社	東京	2010	

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
江見弥生, 莎如拉, 松田美和, 清水恵子, 小谷早葉子, 菊池由加子, 鎌田泰彦, 平松祐司, 中塚幹也	不育症症例における初診時の顕在性不安の検討	岡山県母性衛生	26号		(印刷中)

Yuka Goto, Hiroyuki Okuda, <u>Mikiya</u> <u>Nakatsuka</u>	Autonomic response in women with psychosomatic symptoms: short-term frequency, domain analysis of heart rate variability in ergometer loading	Journal of the Japan Society of Neurovegetative Research	46(4)	341-348	2009
<u>中塚 幹也</u>	新連載 性同一性障害の生徒の問題に向き合う 第1回 性同一性障害をめぐる社会的変遷	中学保健ニュース 高校保健ニュース	第1445号付録	2~3	2009年(平成21年)10月18日発行
<u>中塚 幹也</u>	第2回 思春期における性同一性障害の子ども	中学保健ニュース 高校保健ニュース	第1446号付録	2~3	2009年(平成21年)10月28日発行
<u>中塚 幹也</u>	第3回 学校保健の中でできる取り組み	中学保健ニュース 高校保健ニュース	第1447号付録	2~3	2009年(平成21年)11月8日発行
<u>中塚 幹也</u> , 平松祐司	性同一性障害と思春期	産婦人科治療	99(6)	589-593	2009
<u>中塚 幹也</u>	特集 社会に向けて発信する岡大医療系キャンパス 「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム:なぜ、今、助産師キャリア支援なのか?	岡山医学会雑誌	121	177-181	2009



Ujike H, Otani K, <u>Nakatsuka M</u> , Ishii K, Sasaki A, Oishi T, Sato T, Okahisa Y, Matsumoto Y, Namba Y, Kimata Y, Kuroda S.	Association study of gender identity disorder and sex hormone-related genes.	Prog Neuropsychop armacol Biol Psychiatry	33(7)	1241-1244	2009
吉田真奈美, 溝口祥代, 山下真由, <u>中塚幹也</u>	妊婦における食の安全 性, 葉酸, 水銀の摂取 に関する認識	母性衛生	50 (4)		2009
<u>中塚幹也</u>	流産, 死産を繰り返す 「不育症」の女性 病院対応に4割不満	山陽新聞	6月29日 朝刊	第1面 第22面	2009
<u>中塚幹也</u>	最新の治療法紹介 岡 山大で不育症講演会	山陽新聞	8月3日 朝刊	第22面	2009